

## 注 記

この写真は古い写真の複製と思われる。不完全ながら裏面に撮影時期や被写体の説明がある。背景は下見板張りの和風家屋であるが、裏面に記載された撮影時期当時、協会は、西紺屋町 19 番地のいわゆる銀座煉瓦街の一角にあった。

銀座煉瓦街は、防火構造の街区にするため表通りは煉瓦作りの洋館であるが、裏にバックヤードとして和風家屋が付属していることが多いとされている（藤森、1982）。実際、当時の協会敷地の地図を見ると不燃性の塙工製家屋の裏に木製家屋が描かれている（注）。写真の背景家屋はこの木製家屋の可能性がある。

注) 当時の家屋を製法により区分した資料として参謀本部陸軍部測量局が作成した五千分一東京図がある。そこでは、家屋を塙工製と木製に分けて図示している。これを複製集成した日本地図センター（1992）によれば、塙工は「土壁などをさして、レンガ、土蔵、コンクリート、石など防火的建築物に目立つ紅系統の色彩を落居多様である。」とされている。

### 文献

参謀本部陸軍部測量局（1883）五千分一東京図測量原図「東京府武蔵国麴町区八重洲町近傍」 日本地図センター（1992）地図でみる東京の変遷 I（明治 17 年頃）に収録  
藤森照信（1982）明治の東京計画 岩波書店 330p 24-27、巻末図 5